

# 世田谷まちづくり大学生プレゼンテーション大会

## 提案書要旨

日本大学文理学部社会学科  
後藤範章研究室（鈴木秀隆チーム）

### 選定したテーマ

区内外に向けて世田谷の魅力を発信すること（city sales）で、地域活性化を図る提案

### 掲げたテーマ

“世田谷の市民・住民団体 —ビジュアライゼーションによる公共財化—”

### 現状の把握と課題の設定 <提案書 p.1>

世田谷区には、数多くの市民・住民団体の活動と成果の分厚い蓄積がある。行政も、「住民参加」を標榜し「自治的なまちづくり政策」を推進してきた。現在でも、市民・住民の活動は非常に活発であり、NPO 法人を含め団体数も多い（図3と図4）。23区の中では、港区・千代田区・新宿区・中央区・渋谷区といった都心区（昼間人口指数の高い業務機能の集積地）がNPO法人数のベスト5を独占しているが、世田谷区はそれに次ぐ第6位（都心区の文京区や豊島区よりも上位）となっており、郊外区（昼間人口指数の低い居住-生活機能の集積地）では際だった多さとなっている（図5と図1）。

団体に参画している人々の多くは生き生きと活動しており、豊かな人間関係を築いてもいるが、世田谷の市民・住民団体の存在や活動内容については、必ずしも幅広く認知されているわけではなく、活動の豊かな成果が一般住民に十分に還元されているわけでもない。

「世田谷の市民・住民団体」は「世田谷の魅力」を構成する重要な要素であり、これを広く区内外に向けて発信することで地域活性化を図る方途と仕組みを提言する。

### 地域活性化と目指すまちの姿 <提案書 p.2>

地域活性化には、「行政が先導する地域活性化」「私企業などの事業者が先導する地域活性化」「市民・住民が先導する地域活性化」があるが、私たちは、市民・住民が先導する地域活性化を底上げすることで、民（市民・住民）と業（事業者）と官（行政）の三者間の互惠的なパートナーシップを高めて相互に連携・協働し、真に豊かで暮らしやすい「多色多様なまち」を創造していくことを目指す。

現代社会においては、「都市化（生活の社会化と個人化）」の進展によって、効率的で便利で楽な生活が追究され、面倒で厄介な人との関わりを極力避けて、問題・課題の解決を営利企業や行政に委ねてしまう傾向がますます強まっている。他方で、市民・住民団体の活動は、問題・課題を自分たちの手で解決することを模索し、生きるための知恵や力の働かせ方を、非効率だが経験を通して身に付け（＝身体化）、人から人へ、世代から世代へとバトンを受け渡していつている。そうした「生きる力と術（問題解決能力）」を持った市民・住民が増えることは、市民・住民力を高め、世田谷の共有財産にもなり、まちを活性化させていく。

### 事業の目的と方法 <提案書 pp.3-8>

世田谷区を活動の本拠地とする市民・住民団体を、①データベースと②地図と③映像を用いて「目に見える」ようにし（ビジュアライゼーション）、それを集約しつなぎ合わせて幅広い情報発信と交流の結節点となる④情報プラットフォームをWeb上に構築・公開して、誰でもアクセス可能とすると共に、誰でも参与できる更新作業を重ねていくことで、みんなで関わりながらそれを⑤「公共財」に育てていく。また、これによって、市民・住民の活動をより一層活発なものにし、ネットワーク化することで良い循環・相乗効果を巻き起こして、市民・住民間で「生きる力と術」を高め合えるようにする。

### 事業の効果 <提案書 pp.9-10>

「魅力的で先進的な市民・住民活動のメッカ、世田谷」という新たなブランディングに基づく情報発信、市民・住民団体の自発的な活動の蓄積が「生きる力と術」を高めることに繋がる道筋の提示は、人々の「生き方」を再考させると共に、被災時などの危機的状況下にあってもたくましく生き抜く知恵や勇気を人々に与えることにもなる。これによって、世田谷の外側へ向けての情報発信（city sales）と内側での市民・住民力の向上という、二重の意味での「魅力の創出」と「地域の活性化」を実現する。



# 1. 現状の把握と課題の設定

図1.23 区内の世田谷の位置



図2. 世田谷区の路線図



図5. NPO 法人ベスト6と最下位

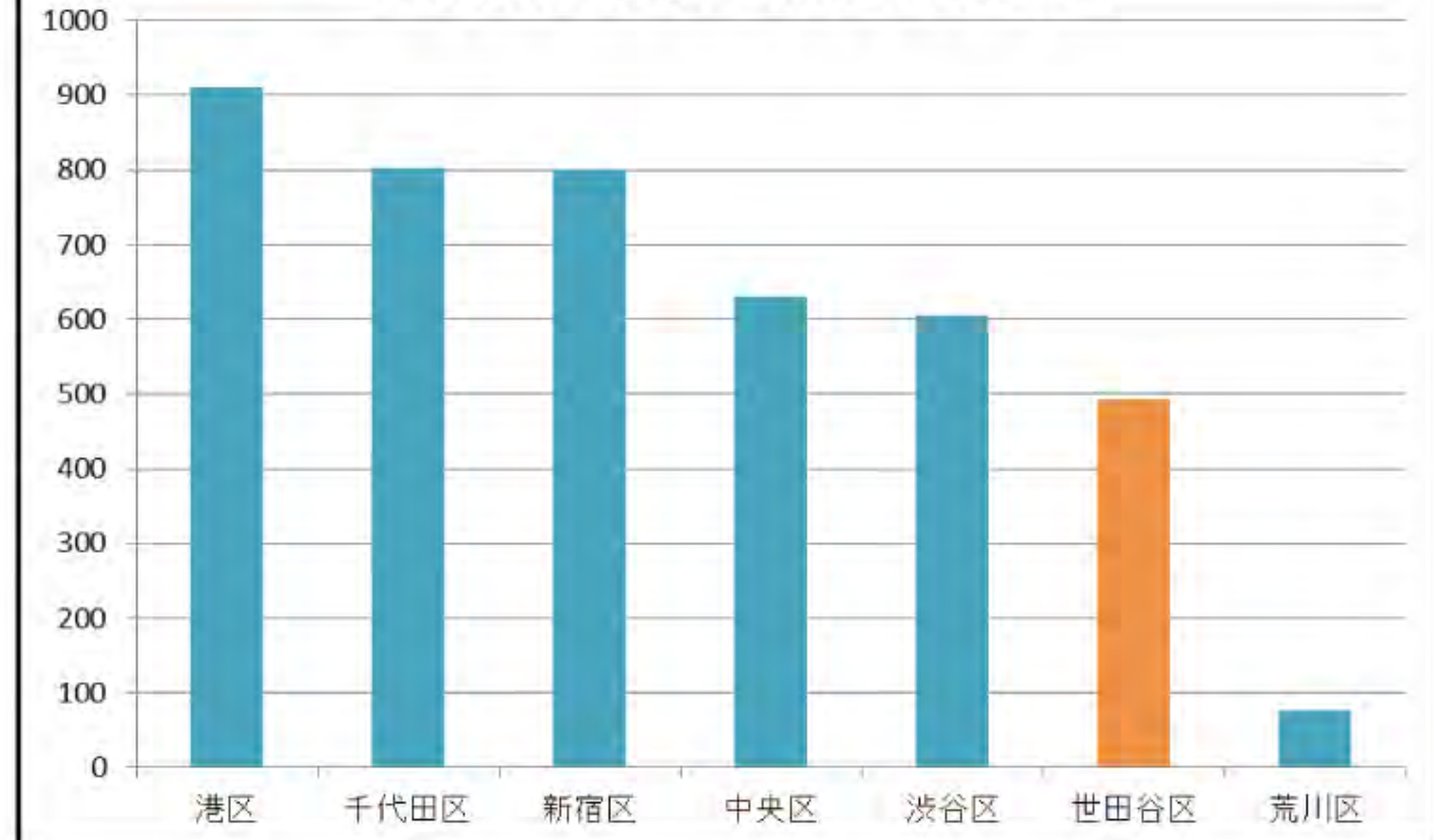


図3. 現存する世田谷の市民・住民団体: 設立年別団体数

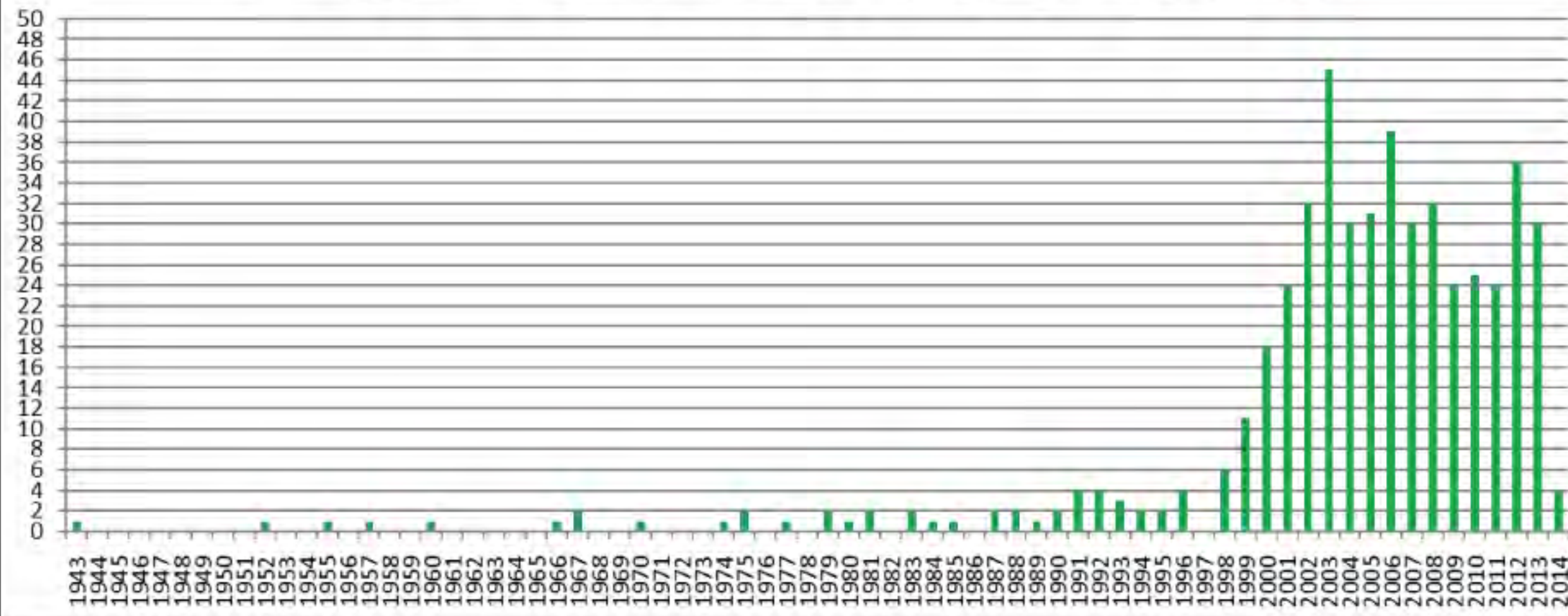
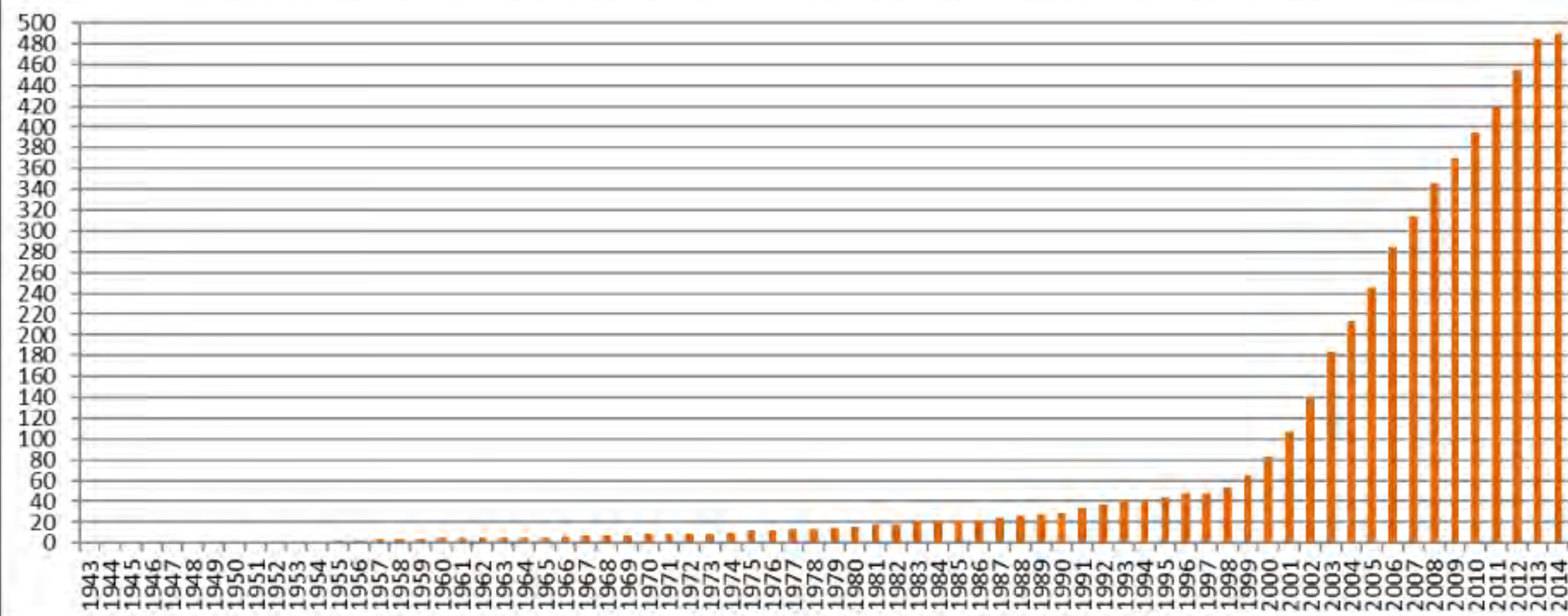


図4. 現存する世田谷の市民・住民団体: 設立年毎の累計数



## 世田谷の市民・住民団体の現状

図3と4は、私たちが調べ作成した世田谷の市民・住民団体のDBを基に、現存する団体の設立年別の数と設立年毎の累計数を表したものである。1998年のNPO法の施行が切っ掛けとなって、NPOを含む市民・住民団体が飛躍的に増加していったことが分かる。図5の通り、NPO法人の数は、23区の中では都心区（昼間人口指数の高い業務機能の集積地）によってベスト5が独占されているが、世田谷区はそれに次ぐ第6位（都心区の文京区や豊島区よりも上位）に位置しており、郊外区（昼間人口指数の低い居住・生活機能の集積地）の中では群を抜いている。

## 課題の設定

世田谷区は、市民・住民の活動が非常に活発であり、「世田谷の魅力」を構成する重要な要素であるが、団体の存在や活動内容が広く認知されているわけでも、活動の豊かな成果が住民に還元されているわけでもない。そこで、広く区内外に向けてその魅力を発信することで、地域活性化を図る方途と仕組みづくりを検討する。

(注) 図3・4は、後藤研究室制作のDBを基に作成。図5は、「内閣府NPOホームページ」の「全国特定非営利活動法人情報の検索」による。



## 2. 地域活性化と目指すまちの姿

### 都市化の進展（生活の社会化と個人化）

- ・ 効率的で便利で楽な生活の追究
- ・ 面倒で厄介な人との関わりの回避
- ・ 問題や課題の解決を私企業や行政に委譲する傾向の深化

人々の「生きる力と術（問題解決能力）」の後退

### 市民・住民団体の活動

- ・ 市民社会や地域社会の問題や課題を自分たちで解決することを模索（自発性と創発性）
- ・ 生きるための知恵や力の働かせ方の身体化と世代間のバトンタッチ
- ・ 問題解決能力の取り返しと地域での経験やノウハウの蓄積

市民・住民力の向上



### 到着目標：

民（市民・住民）と業（事業者）と官（行政）の三者間の互恵的なパートナーシップを高めて相互に連携・協働し、真に豊かで暮らしやすい「多色多彩なまち」を創造していく



# 3. ビジュアライゼーションによる公共財化のプロセスと方法

## ビジュアライゼーション（視覚化／可視化）とは

→ 世田谷区を活動の本拠地とする市民・住民団体を、①データベースと②地図と③映像を用いて「目に見える」ようにすること

## 公共財化とは

→ 世田谷の市民・住民団体に関する情報（データベース、地図、映像）を集約しつなぎ合わせて幅広い情報発信と交流の結節点となる④情報プラットフォームを Web 上に構築・公開して、誰でもアクセス可能とすると共に、誰でも参与できる更新作業を重ねていくことで、みんなで関わりながらそれを⑤「公共財」に育てていくプロセス

### ① データベース化

文献やインターネット、世田谷区市民活動推進課等を通して、世田谷の市民・住民団体を可能な限り網羅的に調べ上げ、各団体に関する詳細な情報を Excel のワークシートにインプットし、データベースを作成した。データクリーニングを行い、最終的には 572 団体の情報を DB に収めた。<完了>

団体名	代表者	活動内容	活動日時	活動場所	活動形態	活動規模	活動費用	活動成果	活動評価
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化
世田谷区民活動推進課	山本 浩一	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報収集	2019年10月	世田谷区民活動推進課	情報収集	区民活動推進課	100,000円	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化	世田谷区民活動推進課の活動に関する情報を収集し、データベース化

### ② 地図化

全ての団体を活動内容を基にして 10 のジャンルに分類し、各団体の活動の本拠地をジャンル別に地図上に落とした。10 枚のジャンル毎の地図と、それらを総合化した地図の合計 11 枚の地図を作成した。<完了>



### ③ 映像化

本格的な AV 機器（一眼レフカメラ、ビデオカメラ、ショットガンマイクなど）を用いて、魅力的な団体や活動の様子などを取材・撮影・録音した。各団体の生き生きとした活動や人々の様子を映し出すことができた。<完了>



### ④ 情報プラットフォーム化

DB・地図・映像を一体化し、その他の情報も盛り込んでウェブ上にアップし、「世田谷の市民・住民団体 Web」として一般公開を目指す。<現在、作業中>



### ⑤ 公共財化

誰でもアクセス可能とすると共に、誰でも参与できる更新作業を重ねていくことで、みんなで関わりながらそれを「公共財」に育てていく。「生きる力と術」の共有化も図る。<今後、着手する予定>

→ 「魅力の創出」と「地域の活性化」の培養器

- ・「魅力的で先進的な市民・住民活動のメッカ、世田谷」のブランディング
- ・団体・市民・住民間の情報共有と交流の促進
- ・危機的状況下でもたくましく生き抜く知恵や勇気の源



# 4. データベース化

団体名	ひらがな	活動の目的・内容	分類	事務所の所在地	地域区分	代表者の氏名	連絡先	事務局長の氏名	同左連絡先	設立年月日	特に力を入れて取り組んでいる課題・テーマ	これまでの主な活動の成果
世田谷区聴覚障害者協会	せたが	この法人は、世田谷区内に居住する聴覚障害者の社会地位の向上と文化水準の高揚に関する事業を行い、もって公益の増進と地域社会に寄与することを目的とする。	1	世田谷区宮坂三丁目12番4号 ドム経営205号室	1	倉方 厚子	03-3706-4629	中込 淳暢	setagaya@deaf.to	1996年11月1日設立	世田谷区に居住する聴覚障害者の地位、福祉、文化の向上をめざし、聴覚障害問題の解決と関係者・区民の連帯交流に関する様々な活動を行っている。	毎週区内各所7クラスで手話を教えている。
国際ボランティア学生協会	こくさ	本会は、主に学生を中心に、児童・生徒からシルバー層にわたる、不特定多数の市民・団体等を対象に、共生社会と連帯の精神を表現するボランティア活動を通じて、人類社会に貢献すると共に、地域社会のリーダー養成に寄与することを目的とする。	2	世田谷区宮坂一丁目34番4号 ザ・アゼリアハウスB棟102号室	1	下村 誠	03-6751-2683	宮崎 猛志	ivusa-office@ivusa.com	1993年設立	「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」の4つの分野で事業を行っている。	カンボジア小学校建設活動などの国際プロジェクト、東日本大震災復興支援活動などの国内プロジェクトの企画・実行。
住環境ネット	じゅうか	この法人は、一般の生活者と設計管理組織及び工事業者を結ぶネットワークを構築し、住環境改善に関するコンサルタント事業、福祉住環境整備に関するサービス事業、生活者に対する住まいの勉強会および住環境改善に関する講習会などの住環境に関する教育事業、住生活における環境保全に関してホームページや講演会の開催などによる普及啓蒙事業などの事業を行うことにより、住環境の向上に寄与することを目的とする。	2	世田谷区大蔵五丁目18番13号	3	稲井 信輝	03-3338-7889	池田 行男	archi@npo-lyukankyo.net	2008年9月25日設立	住環境改善に関する助言および支援。ホテル、店舗、事務所、工場などに関する助言と支援を行っている。	古民家を活用したデイサービスセンター見学会、マンション相談会などを開催。
日本子どもソーシャルワーク協会	にほんこ	この法人は、現在子ども達が置かれている環境の中で、虐待や、不登校、非行などの様々の問題を調査し、また実際に面接などにより対応して、相談事業や子どもたちの健康な成長を援助する等の活動を行い、もって社会全体の利益に寄与することを目的とする。	2	世田谷区成城二丁目29番12号	3	寺出 壽美子	03-5727-2133	芹沢 俊介	03-3416-6894	2000年設立	子どもや若者に寄り添い、子どもや若者が地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指している。	ユースワーカーの訪問(発達障害者・ひきこりのサポート)、ケアワーカーの訪問「ぼらん」(育児をサポート)、「ひあすま」(非行少年等立ち直り支援)など。
共存の森ネットワーク	きょう	この法人は、森と共に生きてきた生活者の伝統的な知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据え、広く一般市民及び青少年に対して、人の暮らしと自然をテーマとした学習・教育・調査研究に関する事業、森づくり、地域づくりに関する事業、本法人の目的に賛同するあらゆる個人、団体、行政とのネットワークを構築する事業等を行うことにより、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくり及び新たな価値観の創造に寄与することを目的とする。	7	世田谷区宮坂三丁目10番9号 経堂フコク生命ビル3階	1	流澤 壽一	03-6432-6580	吉野 奈保子	mori@kyouzo.norg	2007年12月14日設立	「つなぐ」をテーマに聞き書き甲子園、共存の森づくり、学校の森・子どもサミットなどの活動を行っている。	「聞き書き甲子園」を開催し、毎年1冊子を発行。ドキュメンタリー映画を製作。
世田谷桜丘まちづくり	せたが	この法人は、広く一般市民を対象として、農地や屋敷林等の保全事業、商店街の陳腐化を解消するための調査研究および支援事業、子供たちの健全育成のための生活環境の整備や地域施設の運営に関する研究と支援事業、リタイアした人や子育て主婦の職業能力の開発や雇用機会の拡充を支援する事業、災害時の救援活動事業を行い、住民に身近な自然環境、生活環境の保全・拡充を図ることで、若い世代から高齢者までが自然と共生しながら、安全で快適に住み続けられる社会の実現に寄与することを目的とする。	7	世田谷区桜丘二丁目20番10号	4	伊藤 和彦	03-3427-4181	伊藤 和彦	03-3427-4181	2005年NPO法人化	『ゆとりあるまちづくり・人づくり』を通して、誇りを持って『次世代へつなげるまちづくり』を目指している。	定例協議会での部会毎の活動、公園管理小委員会を設け、桜丘児童遊園の花づくりや公園の清掃を定期的に行っている。また、2004年の7月から「わんわんパトロール桜丘」が発足し、地区内の多くの愛犬家に参加している。桜丘コミュニティサロン・ワンワンコントロール・桜丘助け合い隊・ペットボトルのキャップ回収・違法看板撤去・古着回収・公園管理も行う。
くらしの経済サポートセンター	くらし	この法人は、あらゆる階層の一般市民を対象に、金銭教育や金融消費者教育を企画実行することによって、くらしの経済に関する知識の向上と普及を図り、広く公益の増進に貢献することを目的とする。	9	世田谷区南鳥山六丁目6番5号 3階	5	大即 富士子	fujiko@fpr-smile.com	大即 富士子	fujiko@fpr-smile.com	2008年12月02日法人認証	ファイナンシャル・プランナーによるセミナー・相談を開催している。	月ごとにイベントとセミナーを開催 幼児～小学校の親子向け「こづかいゲーム」子育て中の親対象「家計管理」セミナーを実施。
国際芸術家センター	こくさ	この法人は、広く一般市民を対象として、主に踊りや音楽の舞台芸術による国際文化交流事業を行うことで、日本の文化を含めた世界各国諸民族の文化を尊重し、相互の理解を深めることを図り、世界の人々が平和に暮らせる社会の実現に寄与することを目的とする。	10	世田谷区桜二丁目9番30号 みどり荘208号	1	金屋 輝美	03-5426-2047	金屋 輝美	03-5426-2047	1992年発足 2006年NPO認証	文化交流を通じて国際相互理解を深める活動を行っている。	2014年5月23日にワインを楽しむ会を開催。2014年1月24日に港区国際交流会議に参加。2014年2月14日にブルキナファソ大使館との協力事業を実施。
イーパーツ	いーぱ	この法人は、公益活動を行う非営利団体等に対して、情報機器の配布並びにそれに関連する技術及び知識の供与に関する事業を行い、情報教育の推進に寄与すること、および非営利団体の運営または活動に関する援助並びに団体相互の交流の促進に関する事業を行い、非営利団体の健全かつ活発な活動を推進することを目的とする。	11	世田谷区三軒茶屋二丁目55番8号	1	佐々木 良一	03-5481-7369	会田和弘	info@eparts.jp.org	2002年5月23日	リユースPCを無償で寄贈する活動やシンポジウムの開催等を通して、非営利団体・ボランティア団体・高齢者や障害者グループの支援を行って	パソコンや周辺機器による市民活動団体の情報化支援。情報化社会の抱える問題やニーズに即したテーマを、プロジェクトを形成し専門性

私たちは、世田谷を本拠地とする合計 **572** の市民・住民団体を調べ、  
必要な情報をインプットして、DBをこしらえた

地図化・映像化の基データとなる

今まで見えにくかった団体の実績や活動の内容を  
鳥瞰／虫瞰できる

設立年やホームページ保有率などのグラフを作成することで  
市民・住民団体の現状を把握・分析できる

各団体の設立の目的や活動の内容についても整理して記載  
してあるので、何を狙っているかで分類できる



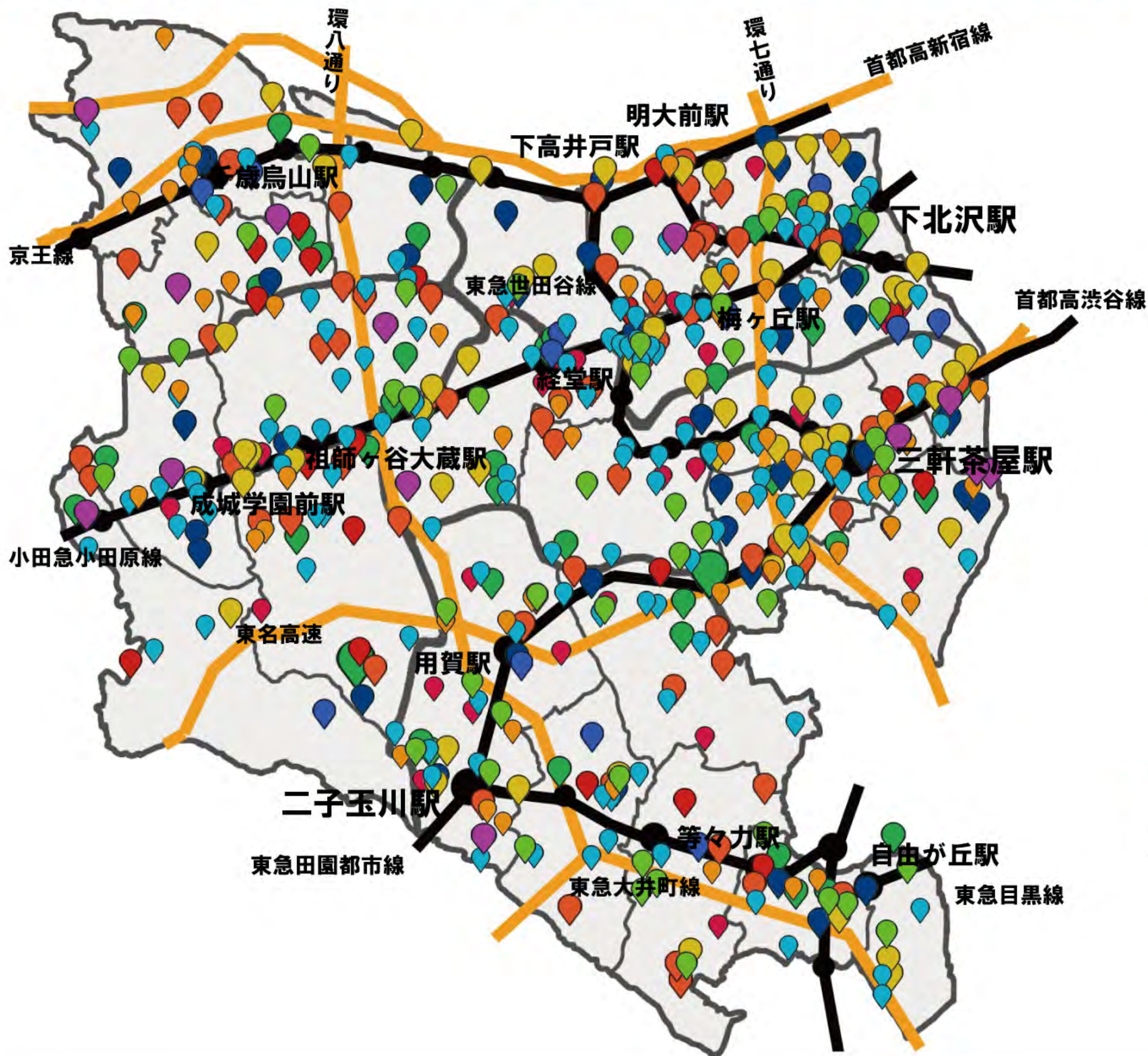
# 5. 地図化 世田谷の市民・住民団体のジャンル別地図



私たちが作成した「世田谷の市民・住民団体 DB」に記載されている合計 572 の団体の活動の本拠地を、「活動の内容・目的」を基に振り分けた 10 のジャンル別に地図に落とし込むことで、「世田谷の市民・住民団体地図」を作成した。



# 6. 地図化 世田谷の市民・住民団体 (10枚を総合化した地図)



- 福祉・保険
- 教育
- 子ども・若者
- 平和・人権
- 国際協力
- まちづくり
- 環境・景観
- 災害・安全
- 消費者問題
- 文化・スポーツ

— 主要幹線道路

— 鉄道  
 (京王線、小田急小田原線、京王井の頭線、東急世田谷線、東急大井町線、東急目黒線、東急田園都市線)



# 7. 映像化 第39回雑居まつりの取材・撮影

事前の会議の様子 (2014年10月4日(土)、梅が丘パークホールにて)



当日の様子 (2014年10月12日(日)、羽根木公園にて、参加団体89)



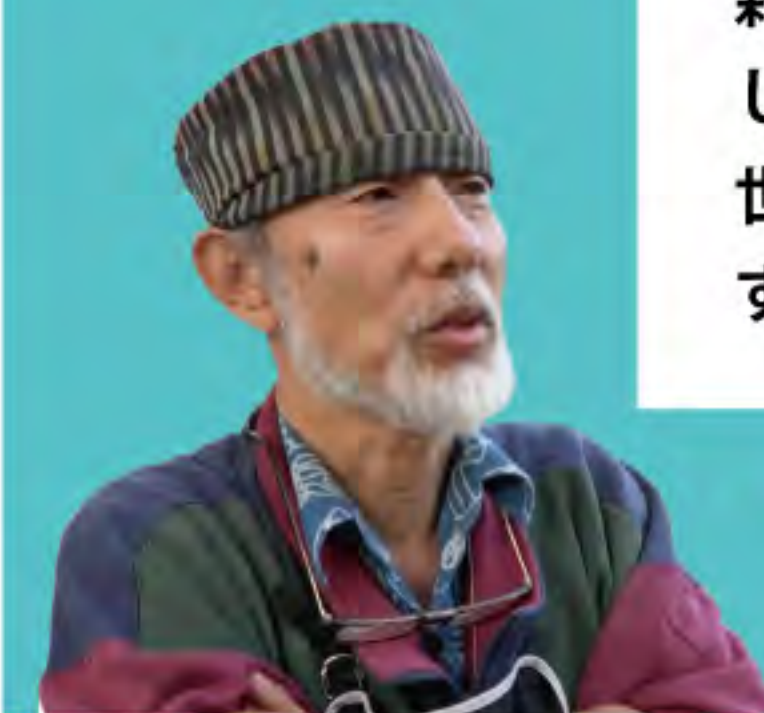
## 「雑居まつり宣言」から

地域は、コミュニケーションの中からお互いを育て、助け合いや平和を愛する心を育てる。

地域は、共通した問題や願いを語り、その解決・実現に向かって行動するエネルギーを生む。

地域は、最も生活に密着した文化を形成する源である。

「**雑**」多な人々が「**居**」合わせ、語り合い、手をつなぎあって、「**まつり**」を通して有形無形のメッセージを伝え合う場



雑居祭りとは様々な区民が今後どういう町にしていきたいかをみんなで話し合える場。世田谷区は小さな失敗を恐れずにチャレンジする人が大勢いる。それが支えになっている。

雑居まつりの発起人  
澤畑 勉さん

雑居祭りは、区民の方が自ら動いて運営しているのが、長続きの秘訣。短い時間の中でも様々な考えを持った区民の方とお話できるのはとても良い機会。若い世代も積極的で、生き方を見つけるにはとても良い。

世田谷区長  
保坂展人さん





# 8. 情報プラットフォーム化と公共財化

## 羽根木プレーパーク

「NPO 法人 プレーパークせたがや」(2005年に法人格を取得)が、世田谷区より委託を受けて運営。世田谷の魅力ある市民・住民団体の活動の代表的な事例。

プレーパーク  
って何？

子どもたちと大人のプレーリーダーと一緒に  
なって創り出す、自由な「冒険遊び場」



### 羽根木プレーパークって？

1979年に日本で最初に誕生した常設のプレーパーク。1975年～1978年までの試行期間を経て、世田谷区が1979年の国際児童年の記念事業に採択し、区と住民との協働事業として正式に開設された。

### 基本的な考えと特徴

- ・モットーは、「自分の責任で自由に遊ぶ」——遊びを通して自分の世界を広げていく
- ・子ども達が、危険から身を守る力や人生を切り開いていく力を身に付けていく
- ・試行錯誤しながら発見していくこととそれを支える大人(プレーリーダー)の存在
- ・地域の課題は地域で話し合いながら、自分たちで決め自分たちで解決していく姿勢



(地図から市民・住民団体の紹介ページを開いた一例)

このようなものをジャンル毎に作成することで、様々な層の多様なニーズにこたえることが可能になる。また、団体に関する情報を載せたり団体のHPにリンクを張ることで、多種多彩な団体にアクセスしたり、多くの団体を知る切っ掛けにもなる。

このプラットフォームをより充実させていけば、これを媒介として、多くの団体や市民・住民の交流が促進され、市民団体の活動が充実していく契機にもなるし、寄付などによる資金面の調達を見込むことも可能となる。

この情報プラットフォームを、「共有財産」としてみんなで育てていくプロセス＝「公共財化」



# 9. 公共財化された情報プラットフォームの市民・住民による利活用の具体例

## case 1

**30代前半 女性** 夫と子どもを持つ主婦

**最近の悩み** 福島第一原子力発電所の事故後に、子どもが放射能の影響を受けやすいという話を聞き、自分の子どもは大丈夫か不安に。今後生きていくうえで、福島のこと、子どものこと、放射能のことをさらに知りたいと感じている。

**調べた経緯** ネットで調べて、情報プラットフォームにたどり着き、ジャンル別に地図化されたページから適当な団体を見出した。

**関心の持った団体** 世田谷子ども守る会

**説明** 放射能についての講演会やメルマガを配信、また子どもの給食についての情報開示を求めたりして活発に活動。



子どものこと、放射能のことを理解することができた。さらに、同じような意識を持ったママ友達が増えたことで、今まで以上に気持ちが楽になり、生活にメリハリができた。

## case 2

**70代前半 男性** 夫婦で2人暮らし

**最近の悩み** 子どもたちはひとり立ちしたが、おばあさんの足腰が悪く、車椅子生活に。しかし、これからも介護施設に頼らずにおばあさんと過ごしていきたい。

**調べた経緯** 近所の老人会でこの悩みの話題になり、地図化されたページのことを知る。息子に検索してもらって色々な団体を見ることができた。

**関心の持った団体** NPO法人 せたがや移動ケア

**説明** 杖、車いす、ストレッチャーで乗車できる福祉車両を手数料無料で手配(いくつかの条件あり)



福祉車両が来ることで、介護の負担が軽減。また、年に2回の「お出かけツアー」によって、生活に楽しみが増えた。

## case 3

**20代前半 男性** 新宿区在住、入社2年目

**最近の悩み** 会社のプロジェクトで世田谷区の実態を調査中、思った以上に市民団体の所在地や活動内容が不明確でもっとパッと見てわかる情報を求めている。

**調べた経緯** 一つの団体のリンク先にあった情報プラットフォームを発見。

**関心の持った団体** ジャンル別の地図、知りたかったジャンルの団体の情報を発見。



世田谷の市民団体は鉄道路線沿いや、交通の拠点性が高い三軒茶屋や下北沢付近に多く分布していることを把握することができた。このデータを基に世田谷でしか行えないような提案を会社として行うことに決定。これで世田谷に今までになかった新規事業が生まれる可能性ができた。

## case 4

**40代後半 女性** 福祉系の市民団体代表

**最近の悩み** 団体を設立して3年、活動の回数やメンバーが時の経過と共に減ってきてしまった。活動自体はかなり区民の人たちの役に立っている自負はあったが、金銭的に限界を感じている。

**情報プラットフォームより** リンク先の1つとして加えてもらった。



近隣住民からの問い合わせが増加。さらに似たような活動している団体とも交流が増えて、新しいノウハウを教えてもらったことで、今後ますます活動が充実する予感。賛同してくれた方々のおかげで寄付金も2倍に増えた。今までより質の高い活動が出来るようになった。



# 10. まとめ

「世田谷区」の魅力の1つである「市民・住民団体」を「ビジュアライズ(視覚化/可視化)」することで「公共財化」する試みが、最終的な目的である「世田谷の地域活性化」へと繋がっていく道筋を示すことができた。最後に、「公共財化による地域活性化」までのプロセスを整理し、今後の展望を述べることで総括とする。

## データベース化

市民・住民団体に関する詳細で網羅的なDBを作成する

## 地図化

団体をジャンル別に整理し、活動の本拠地を地図上に落とす

## 映像化

本格的なAV機器を用いて、魅力的な団体や活動の様子などを取材・撮影する

## 情報プラットフォーム化

DB・地図・映像などを一体化してウェブ上にアップし、「世田谷の市民・住民団体Web」として一般に公開し更新する

## 公共財化による地域活性化

- ・情報プラットフォームの運営と更新にみんなに関わりあいながら、「公共財」に育てていく。
- ・市民・住民団体が活動を通して蓄えている「生きる力と術(問題解決能力)」を区内外に情報発信することによって、そうした情報を必要とする市民・住民のニーズに応えると共に、市民・住民一人一人にも「生きる力と術」を蓄積させることができる(被災時などの危機的状況下にあってもたくましく生き抜く知恵や勇気を人々に与える=市民・住民力の底上げ)。
- ・市民・住民団体の存在や活動内容が幅広く認知されることで、市民・住民間や団体間の距離が短縮され、活動と交流がより活発になったり、様々なサポートを受けやすくなる。
- ・「魅力的で先進的な市民・住民活動のメッカ、世田谷」という新たなブランディングによる情報発信によって、世田谷の知名度・魅力・誘因力をより一層高めることができる。

## 今後の展望

世田谷区は今後、人口の移動と流動により多種多様な生き方をする人々が更に増加していくことが予想される。多様化する生き方から生じる様々な問題や課題に対し、行政や私企業などの事業体に解決を委ねるだけでは対応し切れない。そこで、「市民・住民が先導する地域活性化」を底上げすることで、民(市民・住民)と業(事業者)と官(行政)の三者間の互恵的なパートナーシップを高めて相互に連携・協働し、真に豊かで暮らしやすい「多色多彩なまち」を創造していくことが求められる。こうした新しい地域活性化の実現を可能とする環境が、世田谷区には既に一定程度整っている。それは、雑居まつりや羽根木プレーパークに代表される市民・住民の活動が、長年にわたって継承・再生産されていることが何よりの証である。私たちが行った「ビジュアリゼーション」は、そうした魅力ある地域資源に再度光を当てると共に、それらを一体化した「情報プラットフォーム」が市民・住民の手で「公共財」に育てられていくプロセスによって、世田谷はさらに魅力あふれるまちへと進化を遂げていくのである。

## 参考文献

- ・川口清史・田尾雅夫・新川達郎(2002)『よくわかるNPOボランティア』ミネルヴァ書房
- ・田中弥生(2006)『NPOが自立する日 ー行政の下請け化に未来はないー』日本評論社
- ・谷本寛治・田尾雅夫(2002)『NPOと事業』ミネルヴァ書房
- ・後藤範章ほか(2012)「世田谷における地域性とまちづくりに関する研究」『研究紀要』第83号、日本大学文理学部人文科学研究所
- ・後藤範章(2010)「地域資源の発掘と情報共有システムの構築をめざしてー民学官による連携・協働の仕組みづくりの試みー」『都市社会研究』第2号、せたがや自治政策研究所
- ・羅一慶(2008)『日本の市民社会におけるNPOと市民参加』慶應義塾大学出版会
- ・山本哲・雨宮孝子・新川達郎(2002)『NPOと法・行政』ミネルヴァ書房
- ・『ボロ市のあゆみ』せたがやボロ市保存会